

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年2月2日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	11	1	1	6	7	15
令和6年	19	4	0	4	14	22
前年同期比	-8	-3	1	2	-7	-7

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	3	27.3%	0	0	2	3
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計	3	27.3%	0	0	2	3	5
中央アルプス	1	9.1%	0	0	1	0	1
南アルプス	1	9.1%	0	0	1	0	1
八ヶ岳連峰	0	0.0%	0	0	0	0	0
その他の山岳	6	54.5%	1	1	2	4	8
計	11		1	1	6	7	15

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	0	0.0%	0	0	0	0	0
転倒	6	54.5%	0	0	6	0	6
病気	0	0.0%	0	0	0	0	0
道迷い	2	18.2%	0	0	0	4	4
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	0	0.0%	0	0	0	0	0
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	0	0.0%	0	0	0	0	0
不明・他	3	27.3%	1	1	0	3	5
計	11		1	1	6	7	15

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		
20代	0	0	0	3	3	5	0	0	0	0	0	1	3	6
30代	0	1	1	0	2	38.5%	0	0	0	1	1	50.0%	3	40.0%
40代	0	0	2	0	2	3	0	0	0	0	0	1	2	4
50代	0	0	1	0	1	23.1%	0	0	1	0	1	50.0%	2	26.7%
60代	0	0	1	2	3	5	0	0	0	0	0	0	3	5
70以上	1	0	0	1	2	38.5%	0	0	0	0	0	0.0%	2	33.3%
計	1	1	5	6	13		0	0	1	1	2		15	
比率	86.7%						13.3%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（1/27～2/2）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
1月27日	毛無山	男	40	負傷	転倒	2人パーティで、スキー場管理区域外の山林内を滑走中、転倒、負傷
1月29日	毛無山	女	30	無事救出	道迷い	3人パーティで、スキー場管理区域外の山林内を滑走中、迷い、行動不能
1月29日	北安曇郡小谷村 千国地籍の山中	男	68	無事救出	その他	3人パーティで、バックカントリーをスキーで滑走中、スキー板のビンディングが壊れ、行動不能
		男	67	無事救出	その他	
		男	76	無事救出	その他	
2月1日	下高井郡山ノ内町 大字平穏地籍の山中	男	76	死亡	不明	単独で、スキー場管理区域外の山林内を滑走中、何らかの原因で行動不能（2/3に発見）

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、4件の山岳遭難があり、4件共にバックカントリー遭難で、うち1件は死亡遭難です。スキー場とバックカントリーは「全く別の世界」です。スキー場では来場者の安全のためにスキーパトロールが日々、安全管理を行っています。バックカントリーではそのような措置は執られていません。スキー場の管理区域外へ一歩出れば、厳しい冬山の世界が広がっています。

バックカントリーを滑走する場合は、アクシデントに対応できる知識・技術・装備が必要です。

- ハイックアップ装備を携行
スノーシューやクライミングスキン（シール）を携行し、登り返す技術が必須
- 雪崩対策装備の携行と活用
「雪崩ビーコン・プローブ・スコップ」を携行し、使いこなす技術が必要
- ビバーク装備の携行
ツェルト（簡易テント）・ガスバーナー（ストーブ）・食料・防寒着等を携行

等の、最低限の装備品は携行しましょう。また、雪洞やイグルーなど雪を掘る技術も必須となります。

計画もなく、装備もなく、技術もなく、着の身着のままスキー場の管理区域外に出て滑走する行為は大変危険です。安全を最優先にした判断と、責任ある行動をお願いします。